

バンディングかわら版（11号）

鳥類標識調査（バンディング）で得られた成果をお知らせするニュースレター

鳥類標識調査（バンディング）とは？

番号入りの足環（標識）をつけた野鳥を放鳥し、のちに同じ鳥が再発見（回収）されることで、各個体の移動を調べ、その生態を明らかにする調査です。

世界各国で行われており、最も歴史の長い自然環境調査の一つです。日本では 1924 年に開始されました。現在は環境省が山階鳥類研究所に委託し、多数のボランティア鳥類標識調査員（バンダー）の協力により実施されています。



野鳥につける足環。足環をつけることを「標識」する、その個体が再発見されることを「回収」と言います。

注）この調査は、野鳥を捕獲するための法的な許可（鳥獣捕獲許可）を受け、実施されています。

標識調査からどんなことがわかるの？

絶滅危惧種チゴモズとアカモズの減少傾向を明らかにしました！

環境省レッドリストではそれぞれ絶滅危惧 IA 類（CR）、IB 類（EN）に選定されているチゴモズとアカモズは、どちらも減少が懸念されています。一方、近縁の普通種であるモズは標識調査でよく捕獲される種です。標識調査地点の多くはアシ原などのひらけた場所に設定されています。モズ類はこのような生息環境を好むため、標識調査で捕獲されることが多く、これら 3 種の動向を把握するのに適しています。

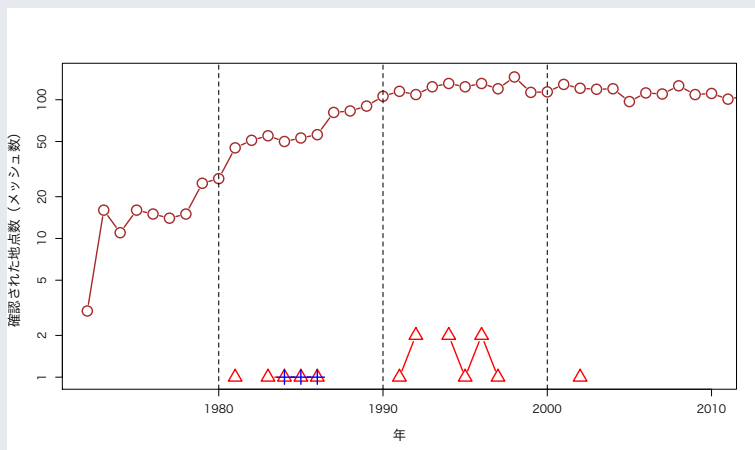


図 1: モズ類 3 種の確認地点数の経年変化：
チゴモズ（+）、モズ（○）、アカモズ（△）

そこで全国（沖縄地区除く）の秋の渡り（9-11 月）を対象として、年代間で出現傾向の比較を行いました（1980 年代 vs 1990 年代、1980 年代 vs 2000 年代の 30 年間）。これは、モズが減少せず横ばいであることを利用した相対比較です。その結果、チゴモズは 1980 年代よりも 1990、2000 年代で減少していました。アカモズは 1980 年代よりも 1990 年代で減少していました。他の情報を合わせて考えると、次のように考えられました。

継続的な標識調査により、チゴモズとアカモズの減少時期が明らかになりました。チゴモズは 1980 年前後または 1990 年頃以後に減少傾向に転じ、アカモズは 1990 年代後半か 2000 年頃から減少した可能性が考えられました。

より詳しく知りたい方は令和 6 年度調査報告書 p.21-24 の本解析結果をご覧ください。
(<https://www.biodic.go.jp/banding/report.html>)

鳥類標識調査にご協力ください！バンダーになりたい方、足環のついた鳥を発見した方、いずれも右記までご連絡ください。

宛先：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115
山階鳥類研究所 鳥類標識センター
電話 04-7182-1107 FAX 04-7182-4342
E-mail: BMRC@yamashina.or.jp

どんな鳥に何羽くらい足環をつけているの？

2023 年に足環をつけて放鳥された総数は 288 種 147,972 羽（前年より 19,819 羽増）でした。上位 3 種は、アオジ（32,009 羽）、オオジュリン（18,902 羽）、メジロ（7,250 羽）です。1961 年から 2023 年までの累計放鳥数は、506 種、約 666 万羽（6,662,554 羽）となりました。



調査のサポートチーム 鳥類標識センターの紹介（放鳥編）

鳥類標識調査では、鳥に足環をつけ、それを再発見するという野外での活動が主体ですが調査体制を整えたり、得られたデータを整理したりすることも、大切な作業の一つです。本号と次号では、この作業を担当する「鳥類標識センター」の役割を紹介します。

許可申請

調査に参加するバンダーは、法令に基づく捕獲許可が 1 年ごとに必要です。一人一人の調査計画をもとに、捕獲する種・数・地域・用いる道具に合わせた書類を準備し、全員分をまとめて申請します。

バンダー支援

全国のバンダーから寄せられる、調査に関する多種多様な相談に、地域性や専門性を踏まえたアドバイスをします。

- ・種・性・齢の識別
- ・捕獲技術や道具の使用方法
- ・新規調査地候補
- ・法令

調査用品の配布

調査に用いる物品の多くは、専用に設計された貸与品です。劣化・破損したかすみ網を新しいものと交換したり、必要な数の足環や用紙を支給したりします。



大規模な調査地では、1 年で数千羽の放鳥があり、物品の消費も相当な数になります。足環の在庫を上回る捕れ高になって、急遽追加の依頼がくることも。

データ整理

1 年の調査が終了したら、データの電子化・エラーチェックを行います。昨年までのデータと統合し、再発見個体の照会・ビッグデータの解析などに用います。

ST	リンク No.	種名	性	齢	標識日	バンダー	ポイント	ステーション	初放鳥日	調査地
T	030-15684	オオジュリン	U	A	'75.05.27	標識研究室	150001	福島潟	'74.06.30	新潟県
N	030-26601	オオジュリン	U	A	'75.05.27	標識研究室	150001	福島潟		新潟県
N	030-26602	オオジュリン	U	A	'75.05.27	標識研究室	150001	福島潟		新潟県
N	020-45301	カワセミ	F	A	'75.05.27	標識研究室	150001	福島潟		新潟県
N	020-45302	カワセミ	M	A	'75.05.27	標識研究室	150001	福島潟		新潟県
T	030-15580	オオジュリン	U	A	'75.05.28	標識研究室	150001	福島潟	'74.06.02	新潟県
P	030-26602	オオジュリン	U	A	'75.05.28	標識研究室	150001	福島潟	'75.05.27	新潟県
M	030-26603	オオジュリン	U	A	'75.05.28	標識研究室	150001	福島潟		新潟県

次号の「回収編」では、足環のついた鳥が再発見された時の作業を紹介します。